

研究主題 書字文化を大切にし、文字感覚を高める書写指導

テーマ 学習過程を重視した指導方法の改善

I 団体について

【団体の概要】

学習指導要領に示された目標を踏まえ、書写の基礎・基本的な知識及び技能や主体的に学習に取り組む態度の育成を図る指導方法の工夫について、研修会を通して研究・実践交流をしている。

【団体の取組み】

年間の主な取組みは次のとおりである。

- ① 6月 定期総会/研修会 書き初め撰文、書き初め執筆者選定
(書き初め紙上展の課題文字を決定し、執筆者を選定する)
- ② 7月 研修会 書き初め文字基準確認
(執筆者が試作した文字基準について検討する)
- ③ 8月 研修会 書き初め文字基準完成
(執筆者による文字基準を再度検討し、完成させる)
- ④ 9月 研修会 研究発表会に向けた指導案検討(1)
(授業担当者が提案した学習指導案について検討する)
- ⑤ 10月 研修会 研究発表会に向けた指導案検討(2)
(授業担当者が提案した学習指導案について検討する)
- ⑥ 11月 研修会 書き初め指導法の研修(1)
(書き初めの執筆者による文字基準の要点等解説を聞き、指導法を学ぶ) 右上に続く▶

⑦ 11月 研究発表会/研修会 書き初め指導法の研修(2)

(公開授業(板橋区立赤塚第三中学校:井上夢可教諭)と研究協議会/書き初めの執筆者による文字基準の要点等解説を聞き、指導法を学ぶ)

⑧ 2月 研修会 書き初め紙上展の審査

(書き初め指導法研修会参加者から審査会の参加者を募り、審査しながら審査法を学ぶ)

⑨ 3月 書き初め展授賞式

その他の活動として、年度末に研究紀要の発行・配布を行っている。

II 研究について(1)

【研究の目的】

生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、書写の知識・技能を高めるために、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの成就を図る。

【研究の方法】

- ① 学習過程を理解し、課題文字との主体的・対話的な学びを通して、文字文化に触れながら書く意識及び書写の知識・技能を向上させる。
- ② ICTを活用し、動画により筆の動かし方等を学ぶことや、自分の書いた文字と文字基準を比較し、「課題」を自ら見出し選択することによって、具体的にその改善に向けて取り組ませる。

Ⅲ 研究について(2)

【研究の内容】

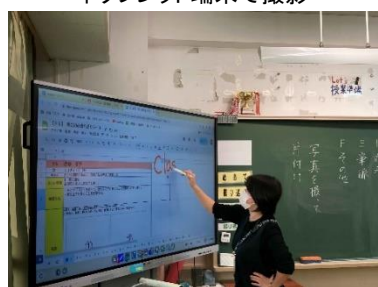
- ① 書き初めの課題文字について、概略と留意点や筆使いなどを知る。
- ② 試書したものを一人1台タブレット端末で撮影して記録に残すと同時に「良かったところ」及び「課題」を自分で考える。
- ③ 課題のA字形、B線の強弱・筆圧、C筆使い、D丸み、E筆脈、Fその他、の中から選んだ各自の課題を集中的に意識して練習する。
- ④ 大型提示装置で筆使い動画を見ながら課題解決を目指して練習し、最も課題解決できた一枚をタブレット端末で撮影し、タブレット端末上で「提出」する。
- ⑤ タブレット端末上で、タブレットシートに振り返りを記入して記録を残し、ポートフォリオとして活用する。



↑留意点を伝える様子



↑タブレット端末で撮影



↑タブレットシートに振り返りを記入

Ⅳ 研究の成果と課題（まとめ）

【研究の成果】

- ・ ICTの活用により「自分のペースで大型提示装置により筆使い動画を何度でも見て確認できる」「自分が書いたものと文字基準を比べて変容を客観的に見ることによって課題が明確になりやすい」「タブレットシートに振り返りを記入して記録を残し、ポートフォリオとして活用する」といった利点が見られた。
- ・ 「課題」を選択させ、課題文字に対して主体的・対話的な学習に取り組むことで、個別最適化を意識した学習の展開ができた。



【研究の課題】

- ・ タブレット端末で他の生徒の提出物を鑑賞することもできるので、効果的に活用し学び合い活動を行う。

<連絡先>

| 団体名 | | 東京都中学校書写研究会 |
|-----|------|--------------|
| 代表者 | 所属 | 杉並区立阿佐ヶ谷中学校 |
| | 職 氏名 | 校長 齋藤 健一 |
| | 連絡先 | 03-3314-2261 |
| 事務局 | 所属 | 葛飾区立小松中学校 |
| | 職 氏名 | 主幹教諭 池田 水帆 |
| | 連絡先 | 03-3653-1436 |